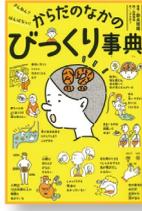


町立
指江図書館

TEL0996-88-6500



「からだのなかの
びっくり事典」
文 ことせき ゆう

人間のからだのなぞをとりあげ、イラストとともにわかりやすく解説しています。

町立
鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



「オオイシさん」
北村 直子 著

どうろうこうじに、すもうのけいこなど大いそがしのオオイシさん。ある日、いがいな仕事にさそわれます。

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

Pick Up New publication

長島 文芸

Nagashima Bungai ながしまぶんげい

長島短歌会

敬老の座に居て吾も促され琴弾きたれば歌声の沸く
坂之下典子
初に來し岬の古墳に潮の香を運ぶ初秋の風心地よ
中山タマエ
海よりの暴風強まり諸もろの思案を絶ちて詩吟を
謡ふ
濱田美代子
吾が肩をなづるに餘る秋の風地面を乱して白萩ゆるる
浜畑 松枝
夕光を受けつつ昇る噴水の秀先を飽かず友と見て
松元 睦子
をり
日の照りて長閑な港すれすれに鷗が一羽廻る親し
岩下 ち江
大雨を束ねることく南風が押す目前走る雨の波横
榎平 頼子
天草の灘に赤光残りみて牧草刈り終ゆ老の祝日
米尾 和子

明神俳句会

終戦忌その後生きつぐ七十四年
淵脇 護
朝顔の明日咲く色にふくらみぬ
大堂 正弘
この指に止まらず空へ赤とんぼ
山寄加代子
けさの秋海青々と波静か
坂口 静子
八月の母の仏飯濁きけり
脇田 武志
手を合わすおりんの響き残暑めく
大堂 早苗

一般作品

とんぼうや島の句会は三百回
白男川孝仁
競ひ合ふ漁船のしづき夏盛り
関 佳代美
過疎村が賑わう帰省子等の声
関 喜久雄
県外の車の屋根に蜻蛉かな
肥後 広行
朝顔や紺色あでやか母の色
二階堂恵子
帰省すぐ荷を置きに行く子供部屋
迫口 君代
秋暑し抜くには早きおかず畑
二階堂妙子

「短歌」
ダレヤメを始む弟あくらかき農の疲れを美人と流す
小林 貢
今なのか辺りを裂いて熊蟬が鳴く生まれ遅しへの
小林 如月
怨みの声か
沖繩に念願かない慰霊碑前に立ちわれ手を合わせ祈り
中仮屋辰子
ふと匂う潮の香ありてふり向けば鋸山眼下鳶ら舞う
母木 良平
元気でな笑顔有るたりさよおなら又合う日迄で頑張りましょうね
町田 末則

「俳句」
秋雨に町も山も見えざりき
宗方 清明